

## 1. はじめに

阪神・淡路大震災の教訓を通して多くの人々が、災害時に即対応できるのは行政ではなく、近隣住民同士、すなわちコミュニティであることを学び、居住地域内でのつながりが持つソフトな防災対策の重要な価値を再確認した。また、日頃からの高齢者への配慮の大切さを学んだことから、近年、防災活動や福祉活動を通じた防災福祉コミュニティづくりが大きな課題となっている。

## 2. 研究目的

阪神・淡路大震災後から現在に至るまで、神戸市内にある9つの区で防災福祉コミュニティづくりが行なわれている。現時点では計189の防災福祉コミュニティが結成された。これら各区での防災福祉コミュニティづくりには、平成10年度に全ての小学校区で結成が完了した区もあれば、現在でも結成が継続している区もあるように、これらの原因には各区の地域特性が影響しているのではないかと考えられる。そこで本研究

表-1 防災福祉コミュニティの結成進行状況

|      | 東灘区                                   | 灘区                | 中央区                       | 兵庫区                       | 北区   | 長田区               | 須磨区                      | 垂水区                       | 西区  |
|------|---------------------------------------|-------------------|---------------------------|---------------------------|--|-------------------|--------------------------|---------------------------|---|
| 7年度  | 本 山                                   | 六甲山               | 西池<br>東川崎<br>港島           | 明 報                       | 生野高野   | 真 陽               | 高倉台                      | 多聞南                       | 若 岡   |
| 8年度  | 魚 崎<br>六甲アイランド                        | 高 羽               | 東 塚<br>旧居留地               | 星 山<br>平 野                | 八 多<br>雲霧が丘  | 丸 山               | 友が丘<br>飯 宿               | 塩 屋<br>美 子                | 神 出   |
| 9年度  | 東 灘<br>本 庄<br>池 崎<br>満が森              | 灘中央<br>岩 上<br>野 上 | 北 野<br>橋<br>中央ふさかい<br>生田川 | 東 野<br>山 水<br>ひよどり<br>湊 山 | 有 馬<br>泉 台<br>南五雲<br>大 沢                           | 長 田<br>会 陽        | 若 草<br>菅の台               | 高 丸<br>多聞東<br>本多聞<br>福 田  | 月が丘<br>春日台  |
| 10年度 | 住 吉<br>御影<br>北<br>本山第二<br>本山南<br>本山第三 | 八 幡<br>郡 賀        | 下山手<br>春日野<br>小野新         | 浜 山<br>兵庫大開               | 淡 河<br>有 野<br>園 台<br>通 場<br>北五雲<br>東 灘             | 若 松<br>野 松        | 若 宮<br>神の谷<br>松 尾<br>横 川 | 磯ヶ丘<br>上高丸<br>東垂水         | 観 音<br>台  |
| 11年度 | 全区で<br>結成済み                           | 河 原<br>なざさ        | 宮 本<br>須磨山<br>若 菜         | 美 田<br>和 崎                | 大 池<br>長 尾<br>屋 敷<br>星和台<br>磯子台                    | 五位の池<br>星 池       | 多井原<br>妙法寺<br>南落合<br>電が台 | 垂 水<br>神廟台<br>つづが丘<br>持口台 | 竹の台<br>枝 吉<br>豊野台<br>玉 津<br>出 合<br>北 山                                      |
| 12年度 |                                       | 阪 田<br>成 徳<br>藤 甲 | 二 宮                       | 川 池<br>中 道                | 有野台<br>ひよどり台<br>花 山<br>山 田<br>甲 崎<br>北神星和台         | 池 田               | 東須磨<br>西高倉               | 磯子台<br>星廟台<br>桃山台<br>千代が丘 | 高津城<br>伊川谷<br>西神工美会<br>有 瀬<br>美 多<br>多 台<br>長 坂<br>平 野<br>井 牧<br>西 太<br>山 寺 |
| 13年度 |                                       | 西 灘<br>灘南         | 山の手<br>園の丘                | 福原・西橋<br>水 入<br>江         | 若 影<br>松の宮<br>小 部<br>大 部<br>小 部<br>鈴 台<br>美 谷<br>上 | 名 倉<br>長 菜        | 大 島<br>東 落<br>合          | 小東山<br>西 落<br>合 北         | 神 谷<br>学園東<br>学園<br>神戸ハイテクパーク<br>高 知  |
| 14年度 |                                       | 全区で<br>結成済み       | 全区で<br>結成済み               | 全区で<br>結成済み               | 全区で<br>結成済み  | 二 葉<br>香 町        |                          |                           | 全区で<br>結成済み   |
| 15年度 |                                       |                   |                           |                           |  |                   | 西須磨                      | 名 谷<br>己 本                |   |
| 16年度 |                                       |                   |                           |                           |  | 志里池北              | 花 谷                      |                           |   |
| 17年度 |                                       |                   |                           |                           |  | 長田山<br>野田北<br>宮 川 |                          |                           |   |
| 18年度 |                                       |                   |                           |                           |  | 新長田北              |                          |                           |   |

では、各区の地域特性を明らかにし、これらが及ぼす防災福祉コミュニティづくりに対する影響を分析していくことを目的とする。

## 3. 防災福祉コミュニティ

## 3.1 定義と構成

防災福祉コミュニティとは、市民、事業者、行政とが協力し合い、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指し、福祉活動や防災活動に取り組むコミュニティをいう。結成単位は小学校区であり、区内の消防団、自治会、婦人会、老人クラブ、商店街、企業、ボランティアなど、地域のあらゆる人々の参加を得て組織づくりをすすめていくものである。

## 3.2 歴史

神戸市で昭和60年ごろから、保険福祉局が高齢社会に向けて、地域での福祉活動推進団体として結成した「ふれあいのまちづくり協議会」や、消防署が防災知識の普及や防災福祉の啓発推進団体として結成した「自主防災推進協議会」が母体となっている。

結成の流れとしては、平成7年にモデル地区を立ち上げ、9年度には全市に結成を推進、平成18年の段階ではほとんどの地区で結成が完了している。

## 4. 研究方法

表-1の通り、各区での防災福祉コミュニティづくりの結成進行速度には差があり、①東灘区（結成進行速度が早い）、②長田区、須磨区、垂水区（結成進行速度が遅い）、③その他の区（平均）というように大きく3つのタイプに分けることができる。そこで、これらの3つのタイプから1区ずつ選出した。①からは阪神・淡路大震災時、人的被害が最も多かった東灘区、②からは物的被害が最も多かった長田区、③からは最も母体数が多い北区を選出した。方法としては、まず各防災福祉コミュニティを結成している小学校区を町丁目単位で把握した後、町丁目単位での地域特性データを抽出し、その後、これらを含む各小学校区単位での地域特性データ①人口数、②年齢別人口数、③第3次産業別従業者数、④住宅種類別棟数、⑤建築用途別棟数を求めた。データは平成2年、7年、12年でまとめており、変動を考察した。



## 5. 要因分析

### 5.1 地域特性の抽出

前述の①～⑤のデータを求めた後、平成8年度に東灘区で結成された「魚崎防災福祉コミュニティ」と平成16年度に長田区で結成された「志里池北部防災福祉コミュニティ」の特に区独自の地域特性が大きく現れている2つのデータを図1～5に示す。

まず東灘区においては特徴的なのは、人口数で増加傾向が見られることと、年齢別人口数では65歳以上の人口率が神戸市内全体に比べ大変低いことである。また住宅種類別棟数では共同住宅数が他の一戸建、長屋建に比べ大変多いこと、建築用途別では住宅数が工業数、商業数に比べて多いことが解かった。長田区の特徴としては、人口数が大幅に減少していることと、年齢別人口数で65歳以上の高齢者率が神戸市内でも特に高いことである。また住宅種類別棟数では一戸建の建物が他の長屋建、共同住宅数に比べ急激に減少していること、東灘区に比べて工業率、商業率が全体的に高いことが解かった。

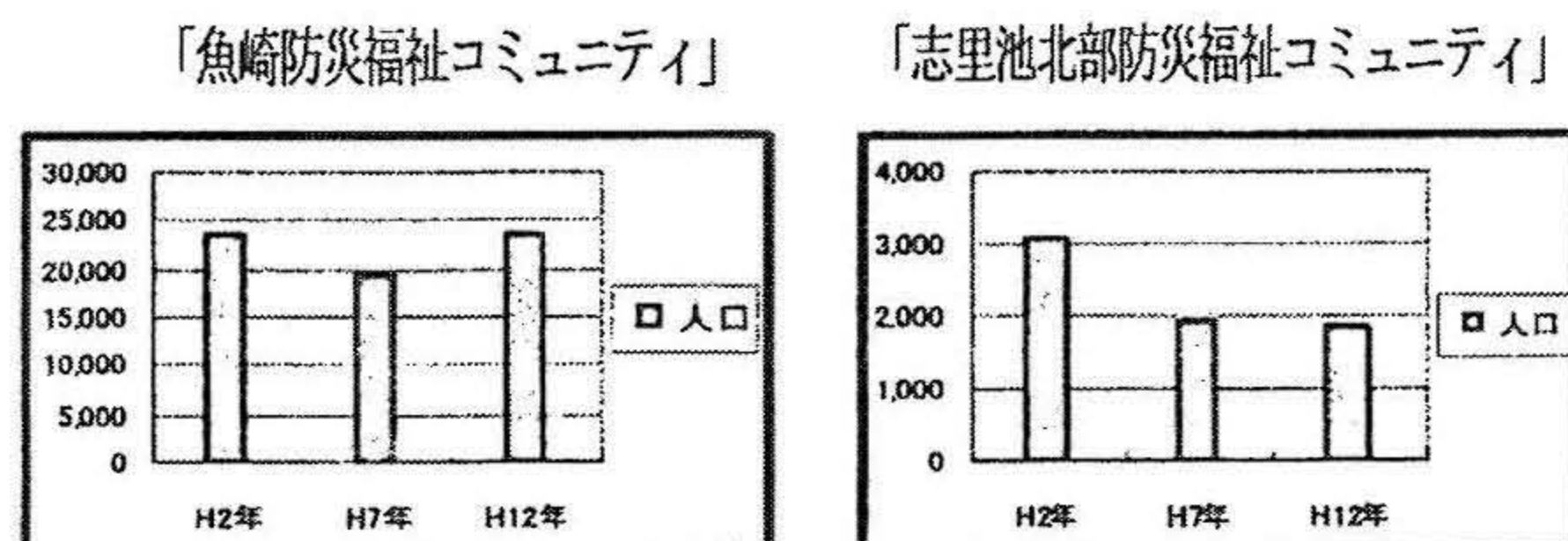


図-1 人口数

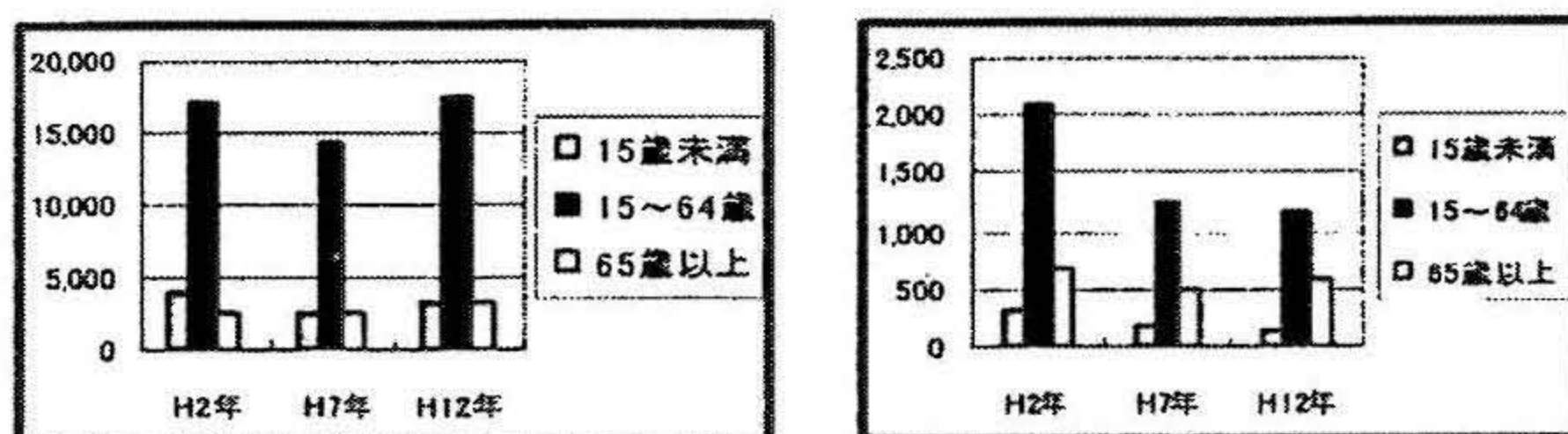


図-2 年齢別人口数

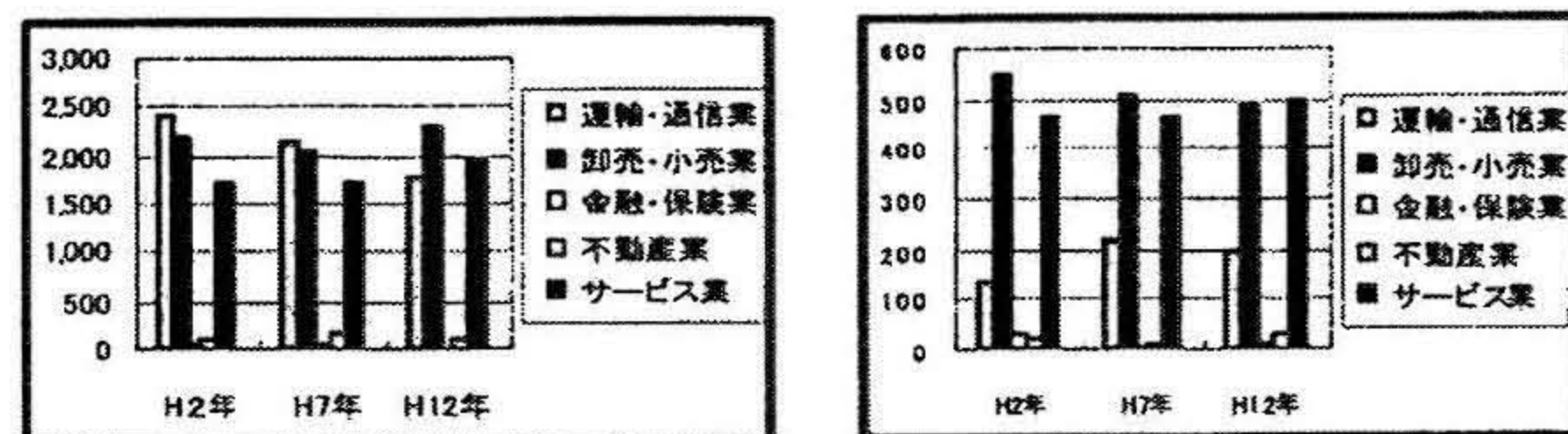


図-3 第3次産業別従業者数

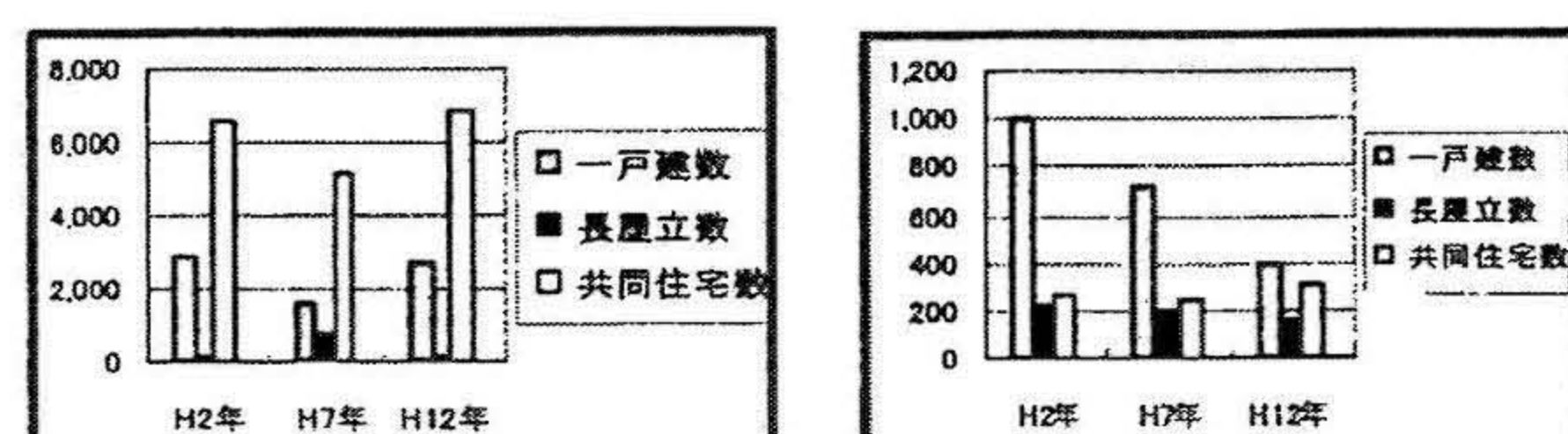


図-4 住宅種類別棟数

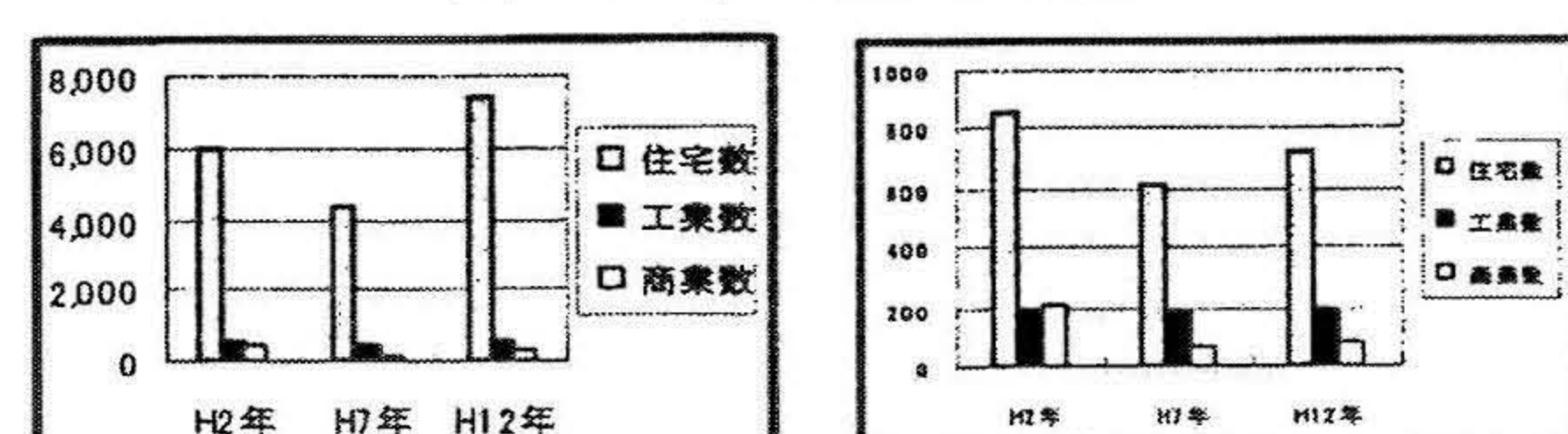


図-5 建築用途別棟数

5.2 防災福祉コミュニティづくりに関与する要因  
前節4.1の5つのデータを基に、平成2年を分母、平成12年を分子とした①人口回復率、②高齢化進行率、③サービス従業者率の推移、④共同住宅率の推移、⑤商・工業率の推移をまとめたレーダーチャートと、各防災福祉コミュニティにおける阪神・淡路大震災時の建物被害状況をレーダーチャートでまとめたデータのこれら2つを比較、検討し考察を行った。

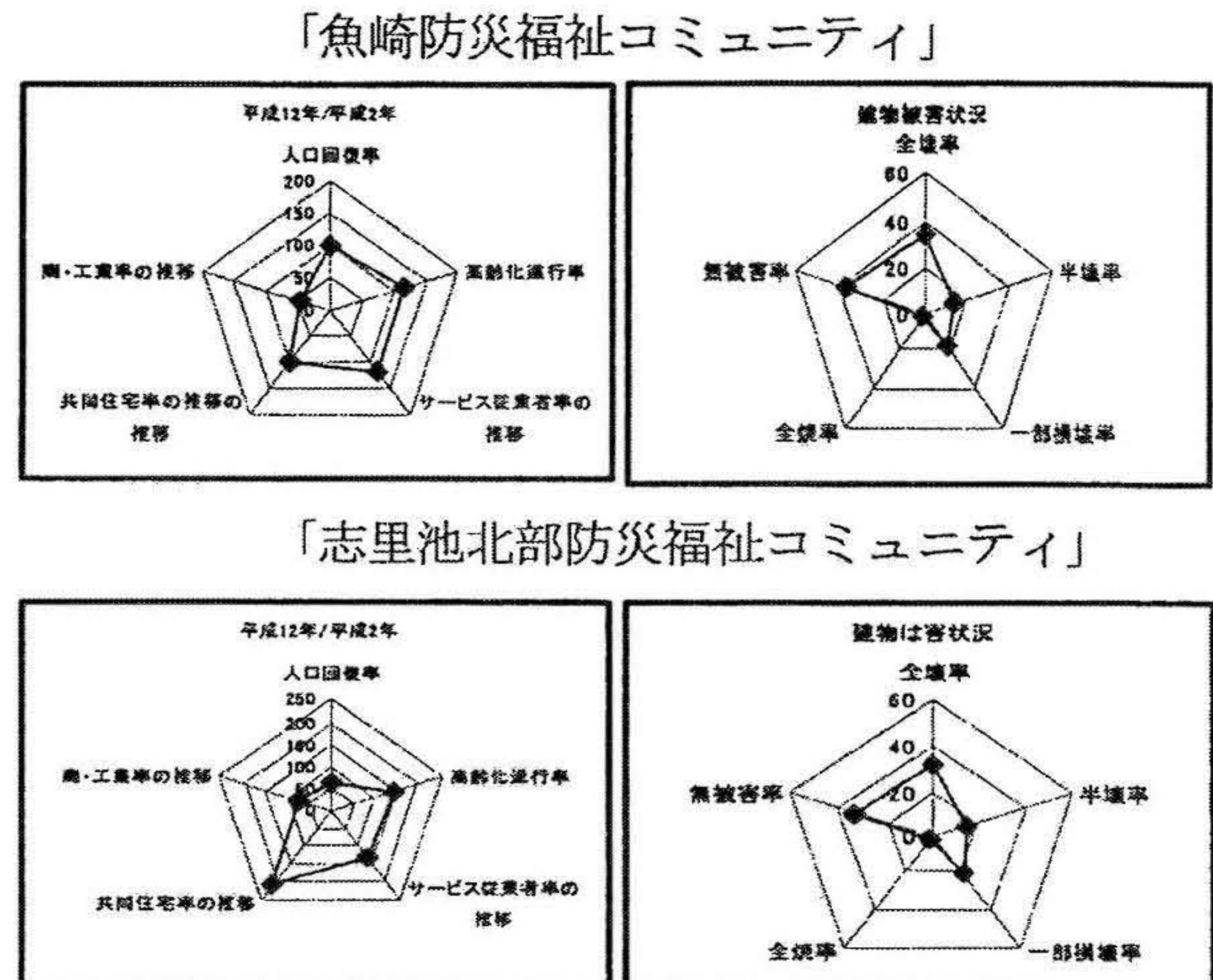


図-6 レーダーチャート

上記データで特徴的なのは、人口回復率と高齢化進行率が対照的なことが挙げられ、また魚崎においては震災前と同じく高い共同住宅率が保たれていること、長田区においては震災からのこの10年で共同住宅率が急激に増加していることが分かった。また、サービス従業者率、商・工業率、建物被害状況においては、これらが防災福祉コミュニティづくりに及ぼす影響は少ないということも分かった。

## 6. まとめ

防災福祉コミュニティづくりに影響を及ぼす地域特性として挙げられる原因は、人的な面では人口回復率と高齢化進行率であり、物的な面では共同住宅率と考えられる。これは、東灘区の震災前から今も残っている多くの共同住宅は、阪神・淡路大震災という特殊な経験を通してコミュニティを形成しやすい環境となり、長田区の震災後急激に建てられた共同住宅はコミュニティを形成しにくい通常的环境と考えた。実際に東灘区の共同住宅でのイベント例は多数あることも分かっている。また、産業構造的な面が防災福祉コミュニティづくりに及ぼす影響は少ないと考えられる。

### 【参考文献】

- 1) 防災福祉コミュニティ 倉田和四生 (1999年9月)
- 2) 復興の総括・検証報告書「神戸市復興・活性化推進懇話会」(2004年3月)
- 3) 阪神・淡路大震災10年「震災10年市民検証研究会」(2005年1月)